

## 祝「NEW GLASS」100号達成

元大阪工業技術試験所・元山村硝子(株)

寺井良平

(Serial. No. 1～12 編集長)

「NEW GLASS」誌発刊100号達成おめでとうございます。今まで積み上げられた多くの努力に対して敬意を表します。

私は今も25年前に開かれた「ニューガラス・フォーラム」設立総会の熱気をよく覚えております。日本硝子製品工業会（小川晋永専務理事）の周到的な準備もあって、ガラス企業ばかりではなく、数多の関連企業、更には海外企業まで、予想を遥かに上回る多数の参加を得て、「ニューガラス・フォーラム」は発足しました。ニューセラミックスやニューカーボンなど、新素材に対する関心が非常な勢いで高揚する環境もあって、「ニューガラス・フォーラム」は様々な分野で、大歓迎を受けたように思われます。「ニューガラス」という新しい表現も定着したようでした。そして総会直後の「企画推進会議」で様々な企画が提案されました。特にニューガラス産業や技術に関する調査活動、海外への調査旅行、ニューガラスに関する国際会議の開催、ニューガラス大学院の開設など、極めて多彩な活動が始まりました。その一つに「広報」に関連した機関誌の発行があり、私がおその担当を仰せつかり、そのタイトルも「NEW GLASS」と決まりました。それまで日本硝子製品工業会では「NEW GLASS TECHNOLOGY」という雑誌（主宰HOYA専務泉谷徹郎氏）が作られていましたが、この雑誌は対象がガラス企業に限定され、「NEW」もTECHNOLOGYに重点が置かれていました。しかし「NEW GLASS」はガラス自体の高機能性に重点がおかれ、その門戸が一段と広げられました。当初はフォーラムの開く「セミナー」の記事を収録する形でスタートしましたが、その後すぐ主要企業の専門家からなる「編集委員会」が設けられ、時の技術課題や、セミナーの解説、新製品紹介、海外動向、留学報告、「ニューガラス教室」など様々な企画が盛り込まれ、今日の「NEW GLASS」の原型が出来上がって行ったように思います。私の担当は、大阪工業技術試験所（現産総研・関西センター）を退職するまでの3年間でした。その間、毎号変わる表紙のデザインも楽しみでした。特に事務局の上松さん（旭硝子）の大変なご努力がその底辺を支えたように思います。私も各社のエキスパートの方々からいろいろ新鮮な知識を与えられ、大変充実した仕事をさせて頂きました。特に委員会の後の慰労パーティーは楽しく、今も心に残

っています。

今日の「ナノガラス技術」の発展を演出したニューガラス・フォーラムの果たした役割や、その後の「NEW GLASS」誌の演じた様々な成果は、歴代の編集に関わって来られた方々の努力の賜物ですが、それらの積み上げは、きっとこれからの活動に役立つものと思われま

す。今後の益々の発展をお祈りいたします。

(終)